

くらしナビ 学ぶ

ウチの教授

北九州市立大 南博さん

地域の課題解決を提案

地域の課題を研究したり、地域で活躍する人材を育成したりする北九州市立大地域戦略研究所で教鞭をとる。フィールドワークを交え、学生が地域に興味や関心を持つようにしている。

2017年度の一般教養では、学部生約80人に地元のサッカーJ3「ギラヴァンツ北九州」のホームスタジアムの集客プランについて考える課題を与えた。学生らはスタジアム周辺で現地調査し、ユニホーム姿で飲食店に寄れば割り引くサービスや、若い女性に的を絞ったレディースデーなどをチーム関係者らに提案した。

また、市内にある松本清張記念館や漫画ミュージアムの学芸員ら、地域の専門家を招いて学生たちが直接話を聞ける講義を企画し、地域のことについて考えるきっかけを作った。できるだけ社会との接点を持たせようとするのは、地域の課題解決に取り組んだシ



みなみひろし 1969年岡山市生まれ、筑波大学院環境科学研究所修士、後富士総合研究所に入社。2007年北九州市立大16年から教授。

ンクタンク勤務時代の経験があるからだ。

「世の中は一つ合意形成をするにしてもいろいろな考え方がある。意見が対立する時には傾聴しないといけないこともある。学生たちには地域に出て幅広い経験をしてもらい、課題を解決するにはどうすればよいか考えられるようになってほしい」 【下原知広】

「中根」の目 データが語る

Table with 2 columns: University Name (Location) and 2018 Applicant Count. Includes Fukuoka University, Rikkyo University, etc.

丸囲み数字は増加の連続年数。増加開始時の一般入試志願者が1000人以上の大学が対象。大学通信調べ

志願者連続増の私大1位 福岡工大

今春の一般入試で、最も志願者を集めたのは5年連続トップとなった近畿大だ。その数は15万6225人。15万人超えは1992年の早稲田大以来、26年ぶり。近大は6年連続で志願者を増やし、その勢いはとどまるところを知らない。

そうした中で、12年連続で志願者を増やし続けている大学がある。福岡工業大である。国立の九州工業大学長から福岡工大に転じた下村輝夫学長が教職員の先頭に立ち、面倒見の良さやキャリア支援に力を入れている。入学してくる学生のレベルも着実に上がり、福岡地区の私立大で西南学院大や福岡大に続くポジションを獲得しつつある。

受験生のニーズをとらえた入試や学部改革、キャンパス再配置などを継続的に行っている龍谷大や桃山学院大なども、志願者を増やし続けている。 【大学センター長・中根正義】

定員管理厳格化で競争激化

2018年私大入試 併願で志願者も増

私立大の志願者が激増した2018年入試は、近年ではまれに見る厳しい状況となった。今春の高校卒業者は前年より約1万4000人減ったにもかかわらずだ。いったい何があったのか。今年の大学入試を振り返った。

●背景に補助金打ち切り基調

駿台予備学校によると、今年一般入試の延べ志願者数は365万人前後とみられている。12年連続の増加となるが、その伸びは前年を100とした場合の指数が107に達した。国公立大は46万5708人と同99で、「私大バブル」ともいべき状況になった。

私立大の入試戦線に何が起きているのか。駿台教育研究所進学情報事業部の石原賢一部長は、その要因として、入学定員管理の厳格化に伴う合格者絞り込み▽併願時の受験料割引拡大▽入試方式の複線化・多様化▽文系学部人気――の四つをあげる。

入学定員管理の厳格化は、大都市部の大学への学生集中を是正するとして、2016年から行われている。収容定員8000人以上の大規模大の場合、これまでは定員の1.2倍以上を入学させると補助金が打ち切られたが、同年春から段階的に厳しくなり、昨年は1.14倍以上、今春は1.1倍以上となり、来春は1.0倍超が定員の超過分に於いて減額される。

ある私立中高一貫校の校長は今春の入試について、「私立大は本当に厳しかった。今までなら、MARCH(明大、青学大、立大、中大、法大)クラスに『受かるかもしれない』と

いう生徒でも合格していたが、今年は『確実』という生徒しか突破できなかった」と振り返る。

表を見てほしい。難関私立大の一般入試での合格者数の推移を示したものが、この3年で軒並み合格者を減らしていることが分かる。

定員管理厳格化の影響は、ほかにも出ている。「入試の厳しさを反映し、合格者の手続き率がアップしたが、一部の難関大が補欠合格者の繰り上げ合格を3月末まで行っため、手続き中の合格者が上位大の補欠合格で入学を辞退し、入学者の確定がぎりぎりまでできなかった」と、中堅私立大の副学長はこぼす。

受験人口が減っているのに、志願者が増えている要因には、同一大で複数学部・学科を併願する場合に受験料を割り引く大学が増え、それを活用して併願を増やす受験生が多くなっていることもある。駿台の石原さんは「インターネットによる出願ができるようになり、併願の手続きが簡単になったことも大きい」と指摘する。さらに、英語の外部試験を用いた入試の導入など、入試方式の複線化、多様化が進んでいることも志願者増の要因といえよう。

●文系学部の人気復活

もう一点、忘れてはならないのが、文系学部の人気復活だ。長引く不況

2016年以降の難関私立大合格者数

Table with 4 columns: University Name, 2016 Applicants, 2017 Applicants, 2018 Applicants (vs 2016). Lists universities like Keio, Waseda, etc.

で文系学部の人気は低迷していた。しかし、大学生の就活戦線は、数年前から売り手市場になっている。

「文系学部出身者の雇用情勢が大きく改善していることから、私立大に多く設置されている経済・経営系学部を中心に幅広く人気が出ている」と説明するのは、大学通信の安田賢治常務だ。ただし、今年入学した学生が就職するのは22年春。安田さんは「20年の東京五輪後は今の景気動向が継続しているか不透明なだけに、安易な学部選びをすると後悔することになる」と注意を促す。

●相次いだ出題ミス

今年の入試では、出題ミスが続発した。昨年入試の大阪大に端を発し、今年は2月から3月にかけて、出題ミスに関する発表が相次いだ。大学通信の安田さんは「分かっているだけでも、国公立、私立を問わず100件以上の出題ミスがあった。受験生の一生を左右しかねないだけに、問題の公開も含め、きちんと対策を講

@大学



出題ミスに揺れた大阪大。入学式で西尾章治郎学長が陳謝する事態に。大阪市内で4月3日、平川義之撮影

じてほしい」と苦言を呈する。

今の高校1年生から、現在の大学入試センター試験に代わる大学入学共通テストが導入される。国語と数学では記述式問題、英語は「読む」「聞く」に加え「書く」「話す」の4技能が重視される。来年の入試について、駿台の石原さんは「入試改革を前に、入試そのものに大きな変化はない」と予想する。

とはいえ、国公立大の2次試験を中心に改革を先取りした形での記述式問題が増えることなどが予想される。大学通信の安田さんは「早めの準備をしていけば怖いものはない。安易に安全志向に走らず、第1志望を目指してほしい」と話している。

【中根正義】

くらしナビ 学ぶ

ウチの教授

成蹊大 池上 敦子さん

一貫教育でESD推進

子どもの頃から数学が好きで、大学では数学科に所属。一方で、水泳では、全国大会決勝に進むほどのスポーツウーマンだった。

大学卒業後、助手として成蹊大へ。ここで最適化数学に出合った。高度情報化社会の到来により、ビッグデータをも対象に、最適な意思決定を支援するものとして注目される分野。本格的な研究生生活は、ここから始まった。

「星孝雄先生(元教授、後にアメリカで活躍)の授業を受け、企業などが抱えている問題を数学で解決できることに衝撃を受けました」

この春、成蹊学園と大学のサステナビリティ教育研究センター所長に就任。ユネスコが進める持続可能な開発のための教育(ESD)の推進に取り組む。総合学園での小学校から大学までが連携した活動は、わが国では初めてだ。学園には、自由で人を大切にする教



いけがみ・あつこ 東京都出身。立教大理学部卒業後、成蹊大工学部助手、同大理工学部講師、准教授を経て、2009年より教授。博士(工学)。

育が伝統として息づく。生徒たちによる気象観測は約90年の歴史があり、小学校では栽培活動などの実績がある。

「小学校から大学まで、都心のワンキャンパスにあるという特性を生かしたい。地域や企業なども巻き込み、一貫教育によるESDを進め、ハブを目指す」と意気込む。自らの研究が、ここでも役立ちそうだ。【中根正義】



「中根」の目 データが語る 世界ランク日本版、私大1位 慶応大

英教育誌「タイムズ・ハイヤー・エデュケーション(THE)」が、昨年に続き大学の世界ランキング日本版を発表した。日本版は、大学の研究力より教育力に力点を置いている。

総合ランキングは、昨年3位だった京大が東大とともに同点1位。昨年2位の東北大は3位となり、東工大、九大などが続いた。ちなみに、上位10校中9校が国立大だった。

私立大の上位10校を見ると、総合10位の慶大がトップに立った。昨年の早大と順位が入れ替わり、上智大、国際基督教大の順となった。ちなみに、公立大のトップ3は昨年同様、国際教養大、会津大、首都大東京だった。

今年のランキングでは、日本人学生の留学比率や外国語で行われている講座の比率が新たに指標として加わり、国際性の比重が高められたという。【大学センター長・中根正義】

世界大学ランキング日本版 私立大トップ10

順位	大学
1	慶応大(10)
2	早稲田大(11)
3	上智大(15)
4	国際基督教大(16)
5	立命館アジア太平洋大(21)
6	立命館大(23)
7	立教大(27)
8	同志社大(28)
9	東京理科大(30)
10	関西学院大(31)

※カッコ内は総合順位

歯科医への道 厳しく 国家試験合格率60%台、学部も定員減

歯科医師国家試験の合格者が3月19日に発表された。合格率は64.5%。5年連続の60%台で、同時に発表となった医師国家試験の91.0%と大きく差が開いた。政府主導による歯学部定の員削減も進み、大学にとっても、歯科医を目指す生徒、学生にとっても、厳しい状況が続いている。

厚生労働省の発表によると、歯科医師国家試験はこの10年ほど、受験者は3000人台前半、合格者は2000人前後で推移している。厚労省と文部科学省が2006年に確認書を取り交わし、同試験の合格基準を引き上げたことがきっかけだ。今年の試験では新卒者の合格率は77.9%だったものの、既卒者は43.5%。新卒、既卒とも合格率が8割を超える大学もある一方で、新卒合格者が1桁だったり、既卒合格者が2割を切ったりしている大学もあり、格差が広がっている。

両省はまた、歯学部の定員削減を各大学に要請することでも合意。全国全29歯学部の昨年度の入学定員は2482人で、1985年度に比べ26.6%減少している。

●「過剰感」を背景に絞り込み

こうした背景には、人口10万人当たり80人を超える歯科医師数を「過剰」とする見方がある。厚労省の検討会は06年、「新規参入歯科医師数を1200人程度とする必要がある」と報告。「入り口」の大学入試と「出口」の国家試験で、絞り込みが図られている。

「歯学部志願者は、理系人気回復した10年度も前年度より2割減少し、不人気の象徴でした。その後持ち直したものの、15年度くらいから

また停滞しています。下位校は定員割れが目立ち、上位校も定員増で入りやすくなった医学部に併願者が流れてしまっています」と河合塾教育情報部の富沢弘和部長はみる。

東京歯科大の片倉明教授は「歯学部生は歯科医以外の職に就くのが極めて難しい。多額の費用と最低でも6年の時間をかけ、毎年1000人が行き場を失っている」と現状を憂える。同大では、成績や学生が抱える問題などのデータを教務部が一元管理し、教員に提供している。学内試験で平均点が悪かった分野を担当した教員には、教務部からすぐに連絡が入る。「職員も教育者」という位置づけだ。既卒者にも指導教員をつける徹底ぶりだ。国家試験合格率9割を7年連続で維持している。「入学させた以上、きちんとした歯科医にするのが我々の責任。診察に欠かせないコミュニケーション力の育成にも力を入れています」と、井出吉信学長は自信を見せる。

職業としての歯科医の魅力が学生に認識させることも、歯学部の大切な役割となってきている。岩手医科大歯学部では11年、米国・ハーバード大歯学部と提携して学生を相互受け入れするなど、教育改革に取り組む。また、東日本大震災での経験を生かし、法歯学と災害歯学を合わせ

た講座もスタートさせ、社会貢献にも目を向けさせている。「地域医療を担う責任感と同時に、海外への目も育ち始めています」と三浦広行学部長は話す。



「狭き門」となった歯科医師を目指す、臨床基礎実習に取り組む学生＝東京歯科大提供

た講座もスタートさせ、社会貢献にも目を向けさせている。「地域医療を担う責任感と同時に、海外への目も育ち始めています」と三浦広行学部長は話す。

●医療の進化見えた教育を

フッ素によるケアや歯磨き習慣の浸透により、虫歯の患者や総入れ歯の人は減少している。「高齢者も自分の歯を多く残せるようになり、治療法の選択肢が増えました。その一方で、義歯のように外すことができないので、自分で口の中をきれいに保てない人も増えています」と東京医科歯科大歯学部付属病院長の若林則幸教授は指摘する。訪問診療などに対応する歯科医も増えているが、

高齢者の多くは内科的疾患を抱えているため、治療が複雑になるケースも少なくない。「こうした疾患形態の変化に対応し、安全な歯科医療を提供できる体制を、地域の歯科医を中心に整えることが重要です」

デジタル化などによって、治療技術も急速に進化している。「医療の役割や仕事内容の変化が予想される中、歯科医の数が多かろうかを、今の状況で判断することはできない」と若林教授は言う。「大学で学んだ技術が、いずれ役に立たなくなってしまう時代です。知識を覚えることよりも、卒業後も学び続けられる力を身につけさせることが、歯学部だけでなく今の教育現場に求められています」【上杉恵子】